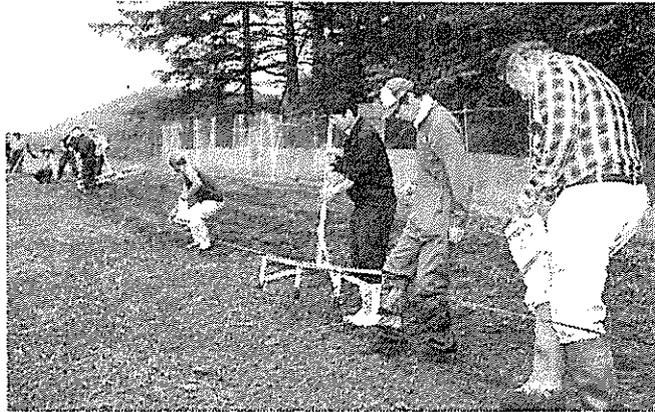


長和町
東京農大生と「山村再生プロジェクト」
新しい試み 食用ヒマワリの種を植える！

長和町は7、9日の3 長門地区、長久保地区で
日間、町内の大門地区、 東京農業大学と連携した



植える位置を確かめながらヒマワリの種を植える

「山村再生プロジェクト」を実施した。東京農大国際食料情報学部・食料環境経済学科は平成20年11月から、文部科学省の「質の高い大学教育（教育GP）」として、長和町をフィールドに実習

活動を展開。遊休荒廃地整備や作物の植え付け、有害鳥獣対策ネット設置をするなかで、町と東京農大の新たな試みとして「山村再生プロジェクト」をスタートさせた。これは遊休農地を活かし、地域おこしにつながる農産物の商品化などを産学官と農林商工が連携し、再発掘していくもの。

今年度は食用油を採るヒマワリの栽培やアスパラガス栽培、堆肥ヤード作りなどのカタチ作り実習に、長門バイパス花植えのホコリ作り実習を重点に行うという。7日は大門地区の窪城圃場で、ふるさと創生コミュニティ「ひまわりプロジェクト」として、「春りん蔵」という食用ヒマワリの種

を植えた。

この日は大学生19人に丸子修学館高校生徒6人地元関係者らが参加。あいにくの雨のなか、専用の道具を使い均等に種を植えていった。ひまわりプロジェクト・古川直孝さんは「新しい試みとして、花も楽しめる上質の食用油が採れるヒマワリを栽培し、油を搾る施設もつくりながら広めていく」と話す。

参加した東京農大・根岸奈央さん(21・3年)は、「毎回楽しみに作業して3年目になる。肌で農地の現状に触れることもでき、下級生にアドバイスもできるようになった」と、作業しながら話していた。町担当者は「2泊3日の実習になるが、

地域の皆さんとの連携も深くなり、お互いに町を盛り上げようという気持ちも伝わる」と語った。

ダツタンそば食材 提供施設建設へ補助

長和町議会で可決

長和町議会6月定例会は10日、ダツタンそば食材提供施設建設補助1500万円などを

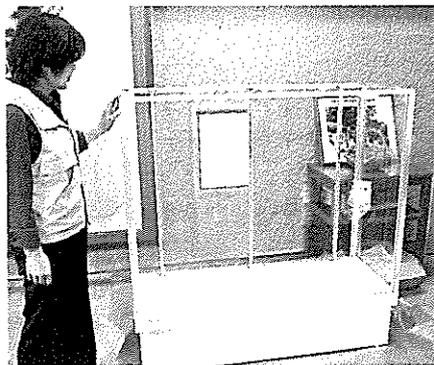
計上した25年度一般会計補正予算案や町水道特別会計補正予算案を、はかり、原案通り可決し、閉会した。
国に対し消費税増税中止の意見書を提出することを求める請願、年金2・5%削減中止を求める陳情はそれぞれ賛成多数で採択、同趣旨の意見書2案が追加提案され、即日審議し賛成多数で可決した。
ダツタンそば食材提供施設は、農事組合法人信濃霧山ダツタンそばが大門で運営するダツタンそば加工品等の販売施設「緑の花そば館」に隣接し、今年11月末完成予定で事業を進めている。洋食にして提供する約50人収容のレストランで木造平屋建て、床面積は147・40㎡の予定。総事業費は8151万円。内訳は国補助金2928万円、本議会可決の町補助金1500万円、組合負担金。

奨励品の利点 出す方法検討へ

長和町と認定団体初の連絡会議

長和町奨励品の認定団体と町による初の連絡会議がこのほど、町役場和田庁舎で開かれた。

町奨励品は、町内13団体から果実100%ジュースやアイスクリームなど特産48品目が認定されている。会合は、奨励品事業



町奨励品を紹介する陳列ケース

のあり方や、認定品の販売促進上の課題など、認定団体と町が意見交換し、今後の事業に生

かす目的で行い、7団体の代表者が参加した。
認定団体から、奨励品認定によるメリットが実感できないとの指摘があるため、メリットを出すより具体的な方法な
町はこれらも含め、特産品の販売促進に向けた情報発信など、より工夫していくという。

ど、年2、3回の会合を持ち検討していくことを確認。町が奨励品周知のために日帰り温

泉施設などへの設置を検討している陳列ケースの購入を報告した。
町内では町と東京農業大学などの連携による山村再生プロジェクトでも今年初めて、ヒマワリからの搾油などを研究するひまわりプロジェクトが進んでいる。同プロジェクトは町のグリーンツーリズム協議会がタイアップ。

東京農大生の挑戦 in 長和町 ② 山村に活力を



夏野菜（ポット苗）植え付け

ここ長和町地域では、蓼科山の雪解けが「スキ形」になると田植

えのシーズンという伝承がある。常に自然と生きてきた農家の智慧であり、いわば農文化。

5月実習では、カレッジツアーの一般客や農大OB・OGも加わり、田植えや森林交流などを行った。カレッジツアーとは、東京農業大学が主催し、ここで学んだ学生たちが長和町の案内人としておもてなしする交流企画である。

森林交流では、大門地区農大の森において、総勢50人余で植樹などを行った。毎年実施しているこ

大豆「コウジイラス」の芽出し方法などの説明を受ける



の交流は、長和町と東京農業大学の連携の始まりで、今年で21年目を迎える。

田植えでは、もち米とうるち米

地域を知りもてなすツアーを企画



手植えでの田植え

「コシヒカリ」を田4枚（約600平方メートル）に手植えた。秋にはツアーも含めて手刈りのはげ掛けを予定している。収穫したお米は、

ツアー参加者へのプレゼントや農閑期の加工実習にも活用する。他にも地大豆「コウジイラス」など15種類の野菜の植え付けも行った。

東京農業大学現地指導員を務める黒沢勇人さんは「長和町に初めて訪れる学生は、『農山村風景はどこかで癒やされる』と言います。でも、それらは日々の暮らしや農業が行き届いてこそ作り出されているものです。まずそのことに気付いてもらうのが、実習の出発点だと考えています」と話す。

（長和町役場産業振興課農政係 尾美保）